

病院とかかりつけ医 ——活用し情報共有

複数の医療機関が患者の診療情報を共有するネットワークシステム「長崎地域医療連携ネットワークシステム（あじさいネットワーク）」に設立から携わった長崎大学院の松本武浩准教授（49）が松江市内でこのほど、講演した。医療の地域連携を促し、先進的な取り組みとして注目されるあじさいネットワークの利点などを解説した。要旨を紹介する。

（生活文化部・村上栄太郎）

長崎大学院 松本准教授が講演

あじさいネットワークは、同意がえられた中核病院の患者のカルテ情報の大部分を、ネットを通じて地



あじさいネットの利点を解説する松本武浩長崎大学院准教授＝松江市学園南1丁目、くにびきメッセ

あじさい ネット 検査や薬の重複解消

域のかかりつけ医（開業医）や他の病院が閲覧できるネットワークシステム。NPO法人が運営しており、閲覧側は月会費を払って利用する。

大村市の2病院を対象に2004年から運用が始まり、長崎市や離島にも広がり、閲覧可能な中核病院は14カ所になった。利用する医療機関数は約150に増え、情報連携は中核病院と

域のかかりつけ医（開業医）や他の病院が閲覧できるネットワークシステム。NPO法人が運営しており、閲覧側は月会費を払って利用する。

大村市の2病院を対象に2004年から運用が始まり、長崎市や離島にも広がり、閲覧可能な中核病院は14カ所になった。利用する医療機関数は約150に増え、情報連携は中核病院と

域のかかりつけ医（開業医）や他の病院が閲覧できるネットワークシステム。NPO法人が運営しており、閲覧側は月会費を払って利用する。

域のかかりつけ医（開業医）や他の病院が閲覧できるネットワークシステム。NPO法人が運営しており、閲覧側は月会費を払って利用する。

域のかかりつけ医（開業医）や他の病院が閲覧できるネットワークシステム。NPO法人が運営しており、閲覧側は月会費を払って利用する。

さんいん医療情報